

日朝関係				
出版社	頁	項目	記述	コメント
大阪書籍	222	日韓基本条約	1965年6月、政府は大韓民国とのあいだに日韓基本条約を結びました(注)。  (注)朝鮮民主主義人民共和国とは、1991(平成3)年によく国交正常化交渉が始まりました。しかし、たがいの主張にへだたりが大きく、交渉は中断していました。2002年に北朝鮮で初の日朝首脳会談が行われ、国交正常化交渉の再開や、日本の無償の資金協力、北朝鮮の核やミサイル問題の解決をはかるなどの日朝平壤宣言が発表されました。 いっぽう、この会談のなかで、北朝鮮側が日本人の拉致の実事(→P.227)を認めました。その後、日朝の国交正常化に向けた交渉は進んでいません。	1991年の日朝交渉開始、2002年日朝首脳会談を記述。交渉経過が比較的分かる記述である。また、日朝平壤宣言の合意点を簡潔に記述している。これらの点は評価できる。ただし、両国の請求権放棄について言及がない点が残念である。
	227	【写真】	北朝鮮から帰国した拉致被害者(2002年) --消息が明らかでない拉致被害者も多く、この問題は、現在も未解決のままです。	
教育出版	194	韓国・中国との国交正常化	しかし、北朝鮮との国交は、まだひらかれないままになっています。	
	199	アジアの多極化の動き	また2002年には日朝首脳会談がひらかれ、国交の回復をめざす日朝平壤宣言に署名しました(注)。会談のなかで、北朝鮮は日本人拉致の実事を認めて謝り、一部の拉致事件被害者の消息を明らかにしました。そして、被害者の一部の帰国が実現しました。しかし、日本政府は、明らかにされていない被害者の消息、および被害者の家族の帰国を求める交渉を、なおもねばり強くつづけています。  (注)日本と北朝鮮とは、まだ国交がひらかれていません。	2002年日朝首脳会談、日朝平壤宣言、拉致事件で朝鮮民主主義人民共和国が謝罪した点を記述。
清水書院	222～223	【本文への補足コーナー】 朝鮮との関係	いっぽう、朝鮮民主主義人民共和国とのあいだは、国としての関係も閉ざされてきた。1991年、両国による国交正常化の交渉ははじめられたが進展せず、中断した。2002年9月に日本の首相が訪朝してはじめて日朝首脳会談(注)が行われ、国交正常化のための交渉が再開された。  (注)この会談で、北朝鮮による日本人の拉致(むりやり連れ去ること)事件などの懸案事項が明らかにされ、交渉は再開されたが、事件が全面的に解決されていないこともあって、正常化の見とおしは立っていない(2005年3月現在)。	1991年の日朝交渉開始、2002年日朝首脳会談を記述。交渉経過が比較的分かる記述である。
	227	日本の課題	側注① 1998年にはインド・パキスタンが新たに核実験をおこなった。2005年には朝鮮民主主義人民共和国が核兵器の保有を表明した。	朝鮮民主主義人民共和国の核保有声明を記述したのは、この教科書のみ。
帝国書院	228	日本と東アジア	しかし、朝鮮民主主義人民共和国とは、まだ、国交がありません。	具体的記述は全くなく、不十分である。

東京書籍	213	デタントと冷戦後の世界	いっぽう、北朝鮮とは国交のないままでしたが、2002年に、総理大臣の小泉潤一郎が平壤を訪問し、国交正常化などの交渉を促進することで合意しました。しかし、拉致問題などもある、その後の交渉は難航しています。	2002年日朝首脳会談、国交正常化促進で合意したと記述。
	213	【写真】	拉致問題 --はじめての日朝首脳会談で、北朝鮮が日本人を不法に拉致した事件が問題になりました。被害者のうちの5人と家族は帰国しましたが、未解決の問題も多く、国交正常化の動きは進んでいません。	
日本書籍新社	227	日韓基本条約とベトナム戦争	北朝鮮との間にはいまだに国交が開かれていない(注)。  (注)2002年のピョンヤン(平壤)宣言で日朝両国政府は、国交正常化を急ぐことに合意した。しかし北朝鮮による日本人拉致問題などのため、交渉は進展していない。	「ピョンヤン宣言」で「国交正常化を急ぐ」ことで合意したと記述。
日本文教出版	213	日本の課題	しかし、朝鮮民主主義人民共和国との国交正常化は、 <b>過去の植民地支配が問われる</b> いっぽうで、日本人の拉致問題もあり、いまだじゅうぶんな対話がなされていない。  ※太字は引用者による。	拉致問題とともに植民地支配の清算問題にも言及されており、バランスがとられている。評価できる。
	213	【写真】	日朝首脳会談 --2002年9月、ピョンヤンで日朝首脳会談が開かれ、交渉再開に合意した。このとき、朝鮮民主主義人民共和国は、日本人を拉致したことを認めた。	金正日と小泉潤一郎が握手する写真を挿入している。
扶桑社	223	【写真】	北朝鮮に拉致されて帰国した人たち(2002.10.15) 2002年9月、訪朝した日本の首相に対し、北朝鮮は日本人を拉致した事実を認めた。その後、拉致被害者の一部は帰国したが、今なお拉致されたとされる多数の日本人の消息が不明であり、問題は解決されていない。	本文に日朝交渉についての記述がない。しかも、朝鮮民主主義人民共和国との国交に言及していないのは、この教科書だけである。